

経済学部における図書文献検索の電算化のお話し

経済学部 山下 邦弘

どんよりとした空から雨が落ちてきた。俊郎は小走りに校舎の玄関に駆け込んだ。昨夜の某女子大とのコンパでいき飲みをやらされたのがたたって、午後もう遅いのになまだ頭が痛かった。昨日の相手はブスばかりで不作だったなあ、と考えながら階段をフラフラと登っていった。踊り場で上から降りてきた同じゼミの三宅しのぶと出会った。「あら、俊郎君。レポートできた?」「いや、これからさ。」「橋木先生怒ってたわよ」「何んて?」「もうあいつは卒業させねえ、って」「うわっ! なにかってえとすぐそれなんだからなあ。」「どうでもいいけど、あなたお酒くさいわよ」「そお? におう?」「また女の子と飲んだんでしょ。いいかげんにしなさいよ」と、怒って階段を駆け降りて行ってしまった。あーあ、また怒らせてしまった。だけど、兎も角レポートを今日中に書き上げないとなあ。だがレポートを書くにはまず資料をさがさなくてはならなかった。俊郎は階段の手すりにつかまりながら、二階の資料室へとむかった。

資料室のおばさん、いや、失礼。おねえさんは、とてもチャーミングな女性であった。けっこう年はいってるはずであるが、遠くから見るととても若くみえる。それに、しゃべりかたがとてもいい。甘えたような声で金沢弁を話すので、楽しくなってくる。「すみません、資料さがしたいんですけど」「どんな資料さがしとるがや?」と、砂糖をまぶしたような声で彼女が言った。「はあ、近代経済史の」「ふうん。先生どなた?」「橋木先生です」「橋木先生? 橋木先生のレポート締めきりすんだないがあ?」「はあ、そうですけど、そのう」「あ、わかった、橋木ゼミの問題児 山下俊郎君やろう?」「えっ、そんなに有名なんですか?」「四年生ながに、いっぺんもここに顔だしとらんが、あんたぐらいなもんやうえ。しっかり勉強しんと卒業できんがなあ?」と、彼女はくりくりした目をもっと大きくして笑いながら言った。

彼女に資料室の使い方を教えてもらって、俊郎は図書カードのボックスの所へ行った。図書カードは書名別、著者別、分類番号別にわかれていて、それぞれカードボックスのひきだし20個ほどの分量があった。俊郎はまず著者名のボックスの“Ka~Ki”のひきだしをあげた。しかし、そのひきだしはカードがびっしり詰まっていて、カードを繰ることができない。しかたないので、そのひきだしをボックスからぬいてテーブルのうえで探すことにした。テーブルの上にはワープロがおいてあった。ワープロの電源を壁のコンセントから引くために金属のパイプが床にとりつけてあったが、俊郎は気がつかなかった。そして、おもいきりつまずいてしまった。もっていたカードケースは、当然のように床に投げ出されてしまった。そして運の悪いことに、カードを綴っている金属棒がはずれ、カードは床じゅうにばらまかれてしまった。俊郎は呆然とつたって、みごとにシャフル (shuff

le) されたカードを眺めている。まわりにいた学生たちは、皆、目が点になっていた。あーあ、今年卒業できそうにないな。きょうは仏滅かな、と俊郎はおもった。しかしその日は友引であったそう。…と言うようなことがあったかどうかは知りませんが、兎も角、起こり得ることです。また、最近、は不精な人が増えてきていて、わざわざ資料室や図書館に出向いて行ってカードを繰るのは面倒だ、というようなこともあり、便利なものは何でも取り込もうという経済学部精神が物を言って電算化に取り組むことになったわけでありませぬ。

電算化した場合に得られる利点を一般論として考えてみますと、まず検索に要する時間を短縮できることが考えられます。ただし、これには少々問題もありますが、つぎに、文献の標題等で探す場合、必ずしも先頭の文字列で探さなくてもよい。つまり、ある文字列が題名の途中ででてくるものもさがすことができるわけでありませぬ。たとえば、“日本の経済史”とか“経済史の変遷”などといったものも、単に“経済史”で検索できる訳です。いままでのカードですと、“日本の経済史”等という題名は“日本”でもって探さなければならなかつた訳です。部分列で探せるということは、本の題名の一部しか憶えていなくても探すことができるということですから、大変便利な訳です。また、他の項目、例えば、著者名等と掛け合わせて検索することもできますから「確か、題名に経済という文字がはいっていて、著者が山田なんかという人だったけど」などというあいまいきわまりない場合でも探しだすことができるのです。さらに、毎年追加購入されるものについても、そのつど入力してゆくだけでよく、分類番号順等に並べ換える必要があれば計算機におねがいすればよいのです。カードを並べ換えるなどという非人間的なことをする必要はありません。もうひとつおまけに、いつでも好きなときに文献目録を印刷することができるという利点もあります。計算機がお嫌いな方は、文献目録を御覧になればよろしい。それでも資料室まで出向いてカードを繰るよりも、随分便利な筈ですから。このような訳で経済学部の図書文献を計算機にいれましょ、ということになりました。

経済学部の図書文献は、和書約18,000冊、洋書約11,000冊位であるとのことでした。一冊あたり1024バイトとして、和書で18Mバイト、洋書で11Mバイト必要となりますので計算機センターの大型計算機を使用することになりました(今ではパソコンでも可能ですが)。そして、文献検索システムとしては富士通のFAIRS(富士通情報検索システム)を使用することにしました。専用端末として6658日本語端末を一台レンタルで借り、資料室に設置したのであります。しかしながら一番の問題点は、何といてもカードに書かれているものを計算機に入力しなければならないということです。とりあえず和書だけとしても18,000枚ほどあるわけですから。我々のような素人では、たとえ束になってかかってもかなりの時間と労力を必要とすることが想像できます。ここはひとつ専門家にお伺いをたててみて財布との相談だ、ということていくつかの業者に見積ってもらうことになりました。その結果、ベリファイ(検証)・修正が不要ならば案外安く引き受けてもらえることがわかつたので、業者に依頼することになりました。図書カードの場合比較的新しいものはよいのですが、古いものではどれが標題でどれが著者名なのかわからない等といったものが多数あるので、

入力後カードと比較し再チェックすることは業者には困難であるため、その部分はこちらですることになりました。カード自体が不備で、本と直接照合しなければならぬものも多数あったからです。ところでもうひとつ厄介な問題がありました。というのは、文献目録を作成する場合、標題、著者名、分類番号でそれぞれ並べ換えなければなりません、分類番号は英数字なので問題ないのですが、標題と著者名は漢字ではいっているので並べ換えができません。何故なら、一般に漢字は音読みと訓読みがまざっているのも機械的にどちらの場合に統一して並べ換えるというわけにはいかないからです。そこまで計算機が自動的にやってくれるとよいのですが、いまのところ、そうはいきません。それで、標題の部分の漢字で入力するかたわら、その読みを片仮名でも入力することになり、多少厄介ですがこれも業者にたのむことにしました。もっとも、経済関係の図書ではあまりむずかしい題名のものでてこないのも、常識的にやれるだろうと思われたからです。実際、できあがったものを見ると結構正しくはっていました。もっとも、何人かのパンチャーが分担していたらしく、ある部分では結構むずかしい読みも正しく入力されていたり、またある部分ではとてつもない読みかたをしたりしてあって、おもわず笑ってしまったこともあります。夏休みのころに業者に依頼したものが秋も深まったころにはすべて入力を終えてもどってきました。そしていよいよ大変な作業であるカードとの照合がはじまったのであります。この作業は、経済学部の教官が分担しておこなっているのですが、まだ作業中です。一年位はかかるようです。そういう訳で、まだ本格的に稼働していないのですが、試験的に時々使っています。なかなか調子はいいようです。本格的に稼働すれば、かなりの威力を発揮することが期待できます。

話はかわりますが、最近計算機の OS として UNIX が話題になることが多いようです。経済学部でも先日 UX-700 という UNIX マシンがはいりました。ミニコンといえるかどうかわかりませんが、ちなみにどの程度の演算速度なのかセンターの M170F と比較してみました。倍精度実数の演算を CPU 時間でみると演算速度は M170F の 8 分の 1 位ようです。これが速いのか遅いのかよくわかりませんが、センターが混んでいる時は UX の方が応答が速いかもしれません。まあ、それは兎も角として、最近では大型計算機にも UNIX がのっかる傾向にあるようで、新聞にも富士通の大型機の OS として UNIX が採用されたなどという記事が載っていました。で、先日その話をしていたら UNIX ってどこが違うか?ときかれて、一言で UNIX の特徴をどう表現するか困ってしまいました。UNIX といえどただの OS で、特に際立った特徴があるわけではありません。ただ、使い易いということしかいえないわけです。けど、その使い易さはどこからくるかを考えると、何かしたい時に、使えそうな小道具が沢山用意されているということではないかと思えます。つまり、UNIX は OS そのものよりも、その下にある豊富なツール群に価値があるのだと思います。というのは UNIX がメーカーによって作られたものではなく、ユーザによって作られたユーザのための OS なのであり、先人たち(ほとんどアメリカ人)の作った便利な道具を資産として蓄積した、ユーザの工具箱なわけです。センターの大型機も IBM のつまらない OS をやめて、UNIX がのっかるといいですね。